

# 実践レポート 探究の窓

VOL.6

2022年度から本格実施となった「総合的な探究の時間」。  
現場で試行錯誤が続くなか、  
実践のヒントとなる探究の事例をご紹介します。

## 個人探究を極めて

## 自信をつけることが、

## 主体的な学びにつながる

東高校（大阪・府立）

### School Data

1923年創立／普通科・英語科・理数科  
／生徒数954人（男子443人・女子511人）  
／進路状況（2024年3月卒業）大学284人、短大1人、専門学校7人、その他16人

自分にとって学びとは何かを  
深めたいうえで、探究に臨む

東高校では、学習指導要領改訂のポイントの1つである探究活動の充実を図るため、探究と親和性の高い図書館活動と情報の機能を合わせた探究推進部を、大阪市から府への移管を機に組織改編して誕生させた。これまでのノウハウと新たな

### 年間スケジュール

#### 探究の基礎と論理的思考力・表現力を身につける

1年

「なぜ学ぶのか」を深め、学ぶ楽しさ、面白さを知ることからスタート。1学期半ばから2学期にかけては外部講師による「論理コミュニケーション」を受講し、論理的に思考・表現するスキルを習得する。3学期には「プレ探究」にグループで取り組み、2年次につなげる。

#### 個人探究で興味・関心事を深め、主体的にグループ探究に臨む

2年（普通科）

1学期は個人探究に取り組み、自分の興味・関心事を徹底的に掘り下げ、夏休みに4000字のレポートを執筆。2学期からは個人探究で培った専門性と自信をベースにグループ探究に取り組み、中間発表会を経て2月の生徒研究活動発表会では1年生に向けて発表する。



写真左から、探究推進部・司書教諭の高池昌子先生、探究推進部長の石山貴裕先生。

取組の融合などについて全教職員の共通理解を得ることをはじめ、さまざまな課題に対して常にブラッシュアップさせようと、現在も探究推進部のメンバーを中心に奮闘している。「本校の探究学習では、論文などの文献を読むこと、資料やデータにあたること、論理的な文章を書くことを大事にしている。こうした活動に、図書館は不可欠」と石山先生は強調する。今秋には府の学校経営推進費を活用して図書館を改装し、生徒が探究活動に使用できるスペースを整備した。

同校は普通科・英語科・理数科の3学科からなり、1年次の総合的な探究の時間は学科横断で行われる。1学期は、「なぜ学ぶのか」について深めることから始める。さまざまな人の話を聞いたり学びについての記事を読んだりして、自分にとって学びとは何か、なぜ勉強するのかを、ワークシートを使いながら言語化していく。

「本校の生徒の多くは厳しい入試を突破して入学しており、勉強はしないと聞かないからするもの、なぜ勉強するかという

根本的な問いが抜けがちなんです。自分がやりたいことができる探究ほど楽しい授業はありません。探究にワクワクした気持ちで前向きに臨んでもらうためにも、まずは、学ぶことの面白さ、楽しさを知ってほしいと考え、ガイダンスではそれが実感できるような事例を盛り込んで話をしています」（石山先生）

### 「論理コミュニケーション」と「プレ探究」で基礎を構築

1学期半ばから2学期にかけては、論述力を育成するために開発された「論理コミュニケーション」（一般財団法人SFCフォーラム提供）に取り組み、論理的に思考・表現するスキルを徹底的に学んでいく。授業は外部講師によるオンライン講義と動画を用いた授業で、論理的文章の設計図の作成法や文献引用のルールなどを広く学び、実際に書くトレーニングを経て検定を受ける。「論理コミュニケーション」の受講により、教員が考えている以上に、生徒に書く力がついている」と石山先生。後述するように、今年度からは普通科の2年次で新しい取組も始まっている。

3学期には、2年次に行く本格的な探究学習に先立ち、3学科横断で「プレ探究」に取り組み。問いとは何か、どのように立てるのかといったガイダンスののち、興味・関心のある学問分野や教科・科目を基に生徒を学科の枠を越えて4〜5人ずつグループニング。グループごとに、自分たちが関心のあるテーマや社会課題に関する文献や資料を手分けして読み、内容を

【生徒の探究テーマの例】

- 各地の神話における類似性について  
～何故遠い地でありながら似た物語が登場するか～
- なぜアンパンマンは子どもに人気なのか
- インターネットにおける誹謗中傷について
- 「かわいい」が与えるもの
- 「人間関係構築」における「第一印象」の重要性について
- 一目惚れと恋
- 経済学と人の心の関係性について  
～人は得をして嬉しくなるのか、損をして悲しくなるのか～
- 価値観の形成のされ方  
～価値観は何に左右されるのか～
- 幸せな人の特徴

ダウンロード可

【テーマ例のデザイン】  
 ① 探究テーマの決定（個人・グループ）を導くための問い（「何を探究するテーマにするか」）  
 ② 探究テーマの決定（個人・グループ）を導くための問い（「何を探究するテーマにするか」）  
 ③ 探究テーマの決定（個人・グループ）を導くための問い（「何を探究するテーマにするか」）

④ 探究テーマの決定（個人・グループ）を導くための問い（「何を探究するテーマにするか」）

⑤ 探究テーマの決定（個人・グループ）を導くための問い（「何を探究するテーマにするか」）

⑥ 探究テーマの決定（個人・グループ）を導くための問い（「何を探究するテーマにするか」）

⑦ 探究テーマの決定（個人・グループ）を導くための問い（「何を探究するテーマにするか」）

⑧ 探究テーマの決定（個人・グループ）を導くための問い（「何を探究するテーマにするか」）

⑨ 探究テーマの決定（個人・グループ）を導くための問い（「何を探究するテーマにするか」）

⑩ 探究テーマの決定（個人・グループ）を導くための問い（「何を探究するテーマにするか」）

「レポート作成の道」と題された2年生向け資料（石山先生作成）。「究めたいこと」を探するための具体的なプロセスやテーマ探しのポイント、問いの立て方・事例などが詳細にまとめられている。



図書館内に新たに整備された探究活動用スペース。グループワークがしやすいよう可動式の机と椅子が置かれ、閲覧スペースの間はカーテンで仕切られ、学習に集中できるように工夫されている。



2年次（普通科）の中間発表会の様子。外部講師らの前で発表するため生徒の緊張も大きいですが、質問に果敢に答えようとする姿や助言を真摯に受け止める姿が見られる。

個人探究で興味・関心事を掘り下げた経験が自信になる

2年次の総合的な探究の時間は、学科ごとに行う。昨年度までは1学期からグループ探究に取り組んでいたが、今年度は1学期は個人探究、2学期からはグループ探究という進め方に切り替えた。

「1年次に受講した論理コミュニケーションで書く力が身につけているのだから、これを活かして2年次でもっと書き、伸ばしていきたいと考えました。そこで、1学期は個人探究とし、自分の興味・関心事を徹底的に掘り下げ、夏休みに4000字のレポートを書いてもらうことにしました。何か一つを極め、自分のものと言える成果物を残すことは、何よりも自信につながります。うちの生徒に書けるだろうかと不安視する声もありましたが、ほとんどの生徒がしっかりと書いて提出してくれました（石山先生）」

2学期からは1学期に取り組んだテーマに基づきグループを組み、グループ探究に取り組み。「ミスマッチがないよう最大限に配慮した」と石山先生が振り返るように、グループ決めの際には生徒へのヒアリングを重ねるなど時間と手間をかけ、今

年度は2〜5人のグループが56班できた。「個人探究を通して自分の専門とも言える分野ができたことで、グループ探究にも積極的、主体的に取り組める」と石山先生。11月には外部講師を招いた中間発表会を行い、そこで得たフィードバックを基に内容をさらに深め、2月に行われる生徒研究活動発表会で集大成を迎える。

「中間発表会の際には、講師の方々からも『今年の生徒はとて前向きだ』と評価していただきました。グループ探究では、人任せにしてしまう生徒が一定数います。しかし今年度は、個人探究で何か一つを極めたというバックボーンがあることで、生徒が堂々とグループ探究に臨んでいると感じます。司会を生徒が務めたことも大きかったです。生徒研究活動発表会では1年生が聴衆になるので、先輩の発表を見て刺激を受けてくれるのではないかと期待しています（高池先生）」

生徒のポテンシャルを信じ、失敗を恐れなくてほしい

探究に力を入れてきた成果は、進学実績にも表れている。3年次の進路選択では探究が進路につながるケースも増えており、学校推薦型選抜や総合型選抜で進学を決める生徒も多い。

「探究テーマが大学で学ぶ学問につながるケースだけでなく、志望理由書や小論文を書く際に、探究学習のプロセスや論理コミュニケーションで身につけた力が大いに活きています。特に、うちの生徒は自分の意見や経験を踏まえて書くことに慣れていたので、

オリジナリティを出せるのが大きな強みになっていると感じます（石山先生）」

探究学習に使える各種コンテンツや生徒のレポートを公開した学内サイトの運用や、各種ワークシート、ガイダンス用の資料など、石山先生を中心に探究推進部では情報の共有・発信に積極的に取り組んできた。また、百科事典や辞書・辞典・新書・統計資料といった1000冊以上の出版物を検索・閲覧できる「ジャパンナレッジ School」を導入し、生徒が自由に使えるようにしている。「お金をかけるべきところにはかける」というのが、探究推進部の motto。「導入したものについては、なぜ大事なのか、どういうシーンでどう使うのかを生徒にしっかりと伝えて活用につなげている」と石山先生は言う。

「探究においては、生徒にメッセージを発信することがとても大事だと考えています。私たちが最重要視しているのが、探究では失敗したっていいんだというメッセージ。成功しようなんて思わないで、やりたいことを追究して楽しんでほしい。これは探究を担当する先生方にも共通認識としてもつてもらっています。同時に先生方に伝えているのが、生徒を見くびらず、ポテンシャルを信じてほしいということ。教員が生徒を信じきれいなかったり、失敗を恐れていたりとすると、生徒の挑戦や成長を阻害してしまいます。実際、毎年、予想を超えてくる生徒がたくさんいるんです。これからも探究への取組を通して、生徒が主体的に動き出すきっかけを作っていきたいと思えます」

「探究においては、生徒にメッセージを発信することがとても大事だと考えています。私たちが最重要視しているのが、探究では失敗したっていいんだというメッセージ。成功しようなんて思わないで、やりたいことを追究して楽しんでほしい。これは探究を担当する先生方にも共通認識としてもつてもらっています。同時に先生方に伝えているのが、生徒を見くびらず、ポテンシャルを信じてほしいということ。教員が生徒を信じきれいなかったり、失敗を恐れていたりとすると、生徒の挑戦や成長を阻害してしまいます。実際、毎年、予想を超えてくる生徒がたくさんいるんです。これからも探究への取組を通して、生徒が主体的に動き出すきっかけを作っていきたいと思えます」

## まとめ

### 東高校の探究のモットー

生徒のポテンシャルを信じ、天井を作らない。  
失敗していい、やりたいことを楽しむのが探究！

#失敗してOK #生徒を信じる #楽しむ

#### 疑問を問いに置き換える 練習を重ね、問いを立てる

問いとは何か、どのような種類があるのか、いかにして問いを立てるのかを、具体的な事例を挙げながらガイダンス。日常のふとした「なぜ？」に目を向け、疑問を問いに置き換える練習を重ねつつ、自分の興味・関心事について問いを立てていく。

#### 先行研究にあたり理解を深め、 資料やデータを集める

立てた問いについて、先行研究を調べる。文献を読んで理解を深め、アンケート調査なども行いながら、関連する資料・データを集める。グループ探究では、学び合いにより同じテーマでも異なるアプローチや見方・考え方に触れ、視野を広げる。

### 課題の 設定

### 情報の 収集

### まとめ・ 表現

### 整理・ 分析

#### 1年生に向けて発表し、 実践報告書をまとめる

2年次2月に生徒研究活動発表会でプレゼンテーションを行う。多くの教室に分かれて行う一大行事となっており、聴衆は1年生。最後は実践報告書として、普通科・英語科はA4・1ページ、理数科は2ページに探究活動のプロセスをまとめる。

#### 得られた情報を踏まえて、 自分はどうか考えるかを深める

得られた情報を整理・分析したうえで、自分はどうか考えるかを深め、独自性を高めていく。2年次のグループ探究では外部講師を交えた中間発表会を行い、講師からのフィードバックを基に分析や考察を深めていく。

#### 探究設計のPOINT

POINT ① 学びについて深め、探究学習に前向きに取り組む土壌をつくる

POINT ② 探究学習の基礎となる論理的思考力・表現力を身につける

POINT ③ 探究を図書・情報とセットでとらえ、図書館機能を活用する

#### 評価の方法

##### 1年次の例：

以下の規準で、各項目についてAまたはBに相当する文章評価を行う。

- ① 知識・技能：「論理コミュニケーション」の検定で一定の評価に1度でも達した場合はAとする。
- ② 思考・判断・表現：「ブレ探究」の生徒相互評価で一定の平均得点以上に達した班の生徒はAとする。
- ③ 主体的に学習に取り組む姿勢：①②のいずれかがAであればAとする\*。

\*①②がともにB評価の生徒で、担任・担当が主体的に学びに取り組む姿勢を「A」と評価できると判断した場合は、①②がともにBでもA評価とできる。